

尿検査	一般定性検査		尿中の蛋白、糖、潜血などの成分を試験紙法で調べます。食事、薬剤、運動などの影響を受けます。そのため結果の評価には、問診や他の検査を組み合わせ総合的に評価します。
一般定性検査	項目	基準値	検査内容の説明
	尿色調	淡黄色～黄色	一般的には黄色調ですが、薬剤などの影響で赤色～橙黄色～茶褐色など様々な色を呈することがあります。
	混濁	(－)	細菌感染(膀胱炎等)によって混濁する事があります。また食事由来の塩類の結晶により、混濁することもあります。
	GS 尿比重	1.005～1.030	腎臓での尿の濃縮力を知る指標の一つです。
	PH 水素イオン濃度	5.0～8.0	食事や運動などの生理的要因により、変動します。
	PRO 蛋白	(－)	健康な人でも、ごく少量排泄されますが通常は陰性(－)です。ネフローゼ症候群、腎炎、膠原病、妊娠中毒などで陽性(＋)となります。
	GLU 糖	(－)	健康な人でも、ごく少量排泄されますが通常は陰性です。血糖値が上昇する疾患(糖尿病、膵炎等)や腎閾値の低下などで陽性となります。
	BLD 潜血	(－)	肉眼では見えないわずかな血尿の状態を「潜血」といい通常は陰性です。腎臓・尿路系や生殖器系に出血があると陽性となります。
	URO ウロビリノゲン	(±)	健康な人でも、少量排泄しています。肝機能障害や溶血性貧血などのビリルビン生成亢進で排泄量が増加します。
	BIL ビリルビン	(－)	通常は陰性です。肝炎、肝硬変、膵頭部癌、総胆管結石など黄疸の場合に陽性となります。
	KET ケトン体	(－)	通常は陰性です。重症糖尿病、飢餓、嘔吐、下痢、妊娠悪阻、小児自家中毒などで陽性となります。
	LEU 白血球	(－)	通常は陰性です。膀胱炎、尿道炎などの尿路感染症や腎炎、ネフローゼ症候群などで陽性となります。
	NIT 亜硝酸塩	(－)	通常は陰性です。細菌性膀胱炎など尿中に細菌がいると陽性となります。
尿沈渣検査	尿中の有形成分を顕微鏡で調べ、赤血球や白血球、上皮細胞などの有無や数の増加などをみます。腎臓や尿路系の病気の診断に重要な検査です。		
	赤血球		糸球体腎炎、腎・尿路腫瘍、腎・尿路結石、膠原病、出血性疾患、生殖器疾患などで増加します。
	白血球		細菌、ウィルス、酵母などの感染症や腎炎、ネフローゼ症候群などの疾患で増加します。
	上皮細胞		尿路系から剥がれ落ちてくる細胞を調べます。正常でも検出される細胞もあります。尿路系の炎症や腫瘍などが分かる場合があります。
	円柱		ネフローゼ症候群、急性腎疾患や激しい運動後など腎臓の尿細管腔に一時的な閉塞があったときに検出されます。
	細菌・酵母		腎臓、尿路系や生殖器系に細菌や酵母の感染症があると検出されます。
	結晶		食事によるもの、先天性代謝異常、肝疾患、薬剤によるものなどがあります。

糞便検査	項目	基準値	検査内容の説明
	便潜血検査	(－)	潰瘍、腫瘍(大腸癌など)、炎症、感染症などによって出血している場合、便中に血液が混じることがあります。この様な場合、便の潜血検査を行うことにより病変が推察されます。痔で出血しているときにも陽性となります。
	便寄生虫検査	(－)	便中の寄生虫卵を検査します。日本には少なくなりましたが、近年、海外旅行先での感染や自然食ブーム、ペットブームなどにより、さまざまな種類の寄生虫感染症が増加しています。